

事業報告

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

I. 会社の現況に関する事項

1. 当事業年度における事業の経過及びその成果

当期の我が国経済は、コロナ禍を経て社会経済活動の正常化が定着する中、インバウンド需要の拡大や春闘における高水準の賃上げを背景とした個人消費の持ち直しにより、緩やかな回復基調が続きました。一方で、円安や資源価格の高騰に伴う物価上昇、人手不足を背景とした人件費の増加など、企業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。また、日本銀行による金融政策（マイナス金利解除及び段階的な利上げ）が進められる中、金利上昇が経済に与える影響にも注視が必要となっております。加えて、米国における関税政策の強化に伴う国際貿易環境の変化や、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格高騰の長期化が懸念されるなど、国際情勢の不確実性が我が国経済に与える影響についても引き続き警戒が求められる状況にあります。

当社沿線地域においては、2024年3月の北陸新幹線金沢・敦賀間延伸開業の効果やインバウンド需要の回復・拡大を背景に、金沢市を中心に外国人観光客数が過去最高を記録するなど、観光需要は堅調に推移しました。

このような経営環境のもと、当社では、2015年3月14日の開業以来、輸送の安全を最優先に取り組み、これまで大きな事故もなく、県民の皆様の日常生活の足として、また北陸新幹線の二次交通として利便性の高いダイヤ設定に努めてまいりました。2025年3月15日のダイヤ改正においても、JR時代から22年ぶりに復活した大聖寺・金沢間の快速列車2本を含め、通勤時間帯を中心に計7本の増便を行うとともに、沿線地域のイベント時に合せた臨時列車増発、増結など更なる利便性の向上に努めたほか企画乗車券の発売などに取り組みました。

こうした取組の結果、当社線のご利用状況については、北陸新幹線敦賀延伸効果に加え、インバウンドも含めた観光需要が好調だったことから、年度計で1,895万6千人（前年比+3.2%）となり、1日あたりの利用者数は前年実績50,335人を1,598人上回る51,933人（前年比+3.2%）と好調に推移いたしました。

区 分	令和 6 年度	令和 7 年度	対前年比		備考
			人数	増減率	
定期外利用者 (千人)	6, 256	6, 537			
一日あたり (人)	17, 141	17, 911	+770	+4. 5%	
定期利用者 (千人)	12, 115	12, 418			
一日あたり (人)	33, 194	34, 023	+829	+2. 5%	
通勤 (千人)	5, 156	5, 360			
一日あたり (人)	14, 128	14, 684	+556	+3. 9%	
通学 (千人)	6, 959	7, 059			
一日あたり (人)	19, 066	19, 339	+273	+1. 4%	
計 (千人)	18, 372	18, 956			
一日あたり (人)	50, 335	51, 933	+1, 598	+3. 2%	

※表示桁数以下四捨五入

このようなご利用状況のもと、当期の営業収益は、旅客運輸収入3,195,178千円、貨物線路使用料収入1,699,038千円、運輸雑収1,519,512千円の計6,413,728千円となった一方、営業費用は計6,456,220千円となり、営業損益は42,491千円の赤字であります。受託工事収支等を加えた経常損益は46,735千円の黒字となりました。また国・県等からの補助金等の特別利益及び、固定資産圧縮損などの特別損失を加味した税引前当期純損益は241,412千円の黒字となり、法人税等94,835千円を差し引いた当期純利益は146,577千円となり、当期末の繰越利益剰余金の額は1,153,374千円となりました。

今後の経営見通しについては、労働力不足に伴うコスト増加に加え、中東情勢の不安定化を背景とした資源価格高騰の長期化が懸念されるなど、国際情勢の変化が経済に与える影響についても注視が必要な状況となっており、引き続き厳しい経営環境にあると認識しております。

次に、県内全線開業2年目における利用促進の取り組みについてであります。主な施策とその成果は以下のとおりです。

（1）ダイヤ改正（2026年3月14日）

快速列車（金沢大聖寺間）上り1本の増便のほか、20時台・21時台の増便を含め計4本の増便を実施

（２）列車増結及び増便

- ・多客時間帯列車の増結（金沢百万石まつり、北國花火など）
- ・早朝に金沢小松快速列車（６両）の臨時運行（小松基地航空祭）
- ・大学入学共通テストに合わせた臨時列車運行

（３）企画きっぷ

- ・「GW 1 日おでかけフリーきっぷ」の継続発売（沿線18施設の割引や特典付き）
- ・「子育て応援スマイルきっぷ」の新規発売開始（沿線３エリアで小学生100円、中学生200円、大人400円）

※トレインパーク白山は沿線どの駅からでも小学生100円で往復利用可

- ・「ツエーゲン金沢応援フリーきっぷ」などイベント連動型のきっぷも展開
- ・「My route」「ジョルダン乗換案内」でのデジタル乗車券の販路拡大

（４）記念事業・自社イベント

6月22日、当社運行開始後のご乗車人員が累計１億人を達成したことから記念セレモニーを開催し、記念品2,000個の配布及びオリジナル記念 I C O C A 5,000枚の販売を行いました。また、自社企画として以下のイベントを実施し、多くの皆様にご参加いただきました。

- ・アンケート&プレゼントキャンペーンの実施（計２回）

第１弾（応募1,570通）、第２弾（応募842通）

- ・鉄道フェスタ（10月）：車両センター特別体験ツアー（90名参加）

南田裕介氏のトークショー、グッズ販売等

- ・運転体験会（11月）：20名参加（子ども10名、大人10名）
- ・バックヤードツアー（夏休み）：78名参加（親子22組56名、大人22名）

※応募総数293名

- ・楽曲に合う鉄道写真コンテスト（県立音楽堂コラボ）：応募95作品

（５）地域・他社連携によるPR

当社公式マスコットキャラクター“あいまるくん”とともに、「ガルガンチュア音楽祭PR出展（金沢駅）」、「野々市じょんからまつり」、「加賀ゆるキャラまつり（加賀アビオシティ）」、「カーフリーデー i n 金沢」、「いいところ白山鉄道まつり」、北陸鉄道主催の「あさでんまつり（北鉄内灘駅）」など、沿線各地のイベントや他社イベントにも積極的に参加し、I R いしかわ鉄道の認知度向上を図りました。

また、ツエーゲン金沢や金沢武士団（金沢サムライズ）との連携PR、北陸鉄道主催の「ほくてつハイキング」へ共催するなど、地域の様々な主体との協力関係を強化しました。3月には、高校卒業生を対象に東金沢駅ほか5駅でメッセージボードの掲出とエアリーフローラ（花）の配布を行い、日頃の鉄道利用への感謝と門出を祝いました。

（6）広域連携・他社協業

北陸3県の並行在来線乗り放題「北陸3県2dayパス」を継続販売したほか、12月にはスマートフォン用ゲームアプリ「駅メモ！」とコラボした北信越4県並行在来線連携デジタルスタンプラリーを展開するとともに、えちごトキめき鉄道・あいの風とやま鉄道と連携したリゾート列車「えちごトキめきリゾート雪月花」の上越妙高～金沢間の特別運行を実施しました。3月にはデジタルスタンプ「エキタグ」のフルカラー化記念スタンプラリー（3月14日～）を開始しました。

（7）グッズ販売等

グッズ販売では、「駅たびノート」「521系車両キーホルダー」（11月）、「あいまるくんマグカップ」「あいまるくんボールペン」（3月）など新商品を展開しました。また、いしかわプレミアム・パスポート事業への協賛（11月）として、当社グッズ購入の際に、割引特典を付与しました。

（8）駅等設備の快適化

小舞子駅のトイレ洋式化工事が3月に完了し、供用開始しました。

最後に安全確保の取り組みについては、6月にあいの風とやま鉄道、9月にハピラインふくいと合同で列車救援訓練を実施したほか、11月には地元警察・消防との総合事故対応訓練（震度7・脱線を想定）、列車防護訓練、金沢市危機管理課主催の帰宅困難者対策訓練を金沢駅もてなしドームで実施しました。また2月には金沢東警察署の協力のもと金沢駅においてテロ対処訓練を実施しました。引き続きこうした訓練を通じて関係機関との連携強化に努めてまいります。

2. 対処すべき課題

県内全線開業から丸2年を経過し、人口減少による落ち込みも懸念される中ではありましたが、想定を上回る好調なご利用をいただきました。更なる利用者数

の拡大を目指して、改正ダイヤ等に関するアンケートの実施などを通してお客様の声を聴くとともに、その利用実態を検証しつつ、必要な施策を随時展開し、更なる利便性の向上と利用促進に繋げていきます。

また、持続可能な経営基盤の確立に向け、利用促進による収益の確保を図るとともに、経費の節減及び業務の効率化を推進してまいります。

設備投資計画については、中長期的な視点に立ち、鉄道施設及び設備の安全性・健全性の維持・向上や利便性向上に資するべく着実に実行するとともに、その原資となる国費等の財源確保にも努めてまいります。

また、人材の確保と育成も最重要課題であります。現在170名程のJR出向者を、全線開業後10年を目途に計画的に返還する必要があることから、年20～30名程度の新規採用者の確保が不可欠であります。全国的に売り手市場の厳しい採用環境において選ばれる企業となるため、当社が地域に寄り添った働き甲斐のある企業であることをホームページやSNSで広く発信し、認知度の向上に繋げてまいります。あわせて、社員一人ひとりの能力が発揮される組織体制の強化を図ってまいります。

引き続き、安全安定輸送を最優先に、地域と連携した魅力ある企画を積極的に展開し、地域から愛され信頼され、地域と共に成長する鉄道会社として、全社員一丸となって取り組んでまいります。

貸 借 対 照 表

令和 8 年 3 月 31 日 現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流 動 資 産	5,861,062	流 動 負 債	3,102,833
現金及び預金	3,737,967	未 払 金	2,652,671
未 収 運 賃	89,281	未 払 費 用	11,671
未 収 金	1,715,767	未 払 法 人 税 等	29,448
未収還付法人税等	6	未 払 消 費 税 等	10,830
貯 蔵 品	289,899	預 り 連 絡 運 賃	103,049
前 払 費 用	25,472	前 受 運 賃	195,818
その他の流動資産	2,668	リ ー ス 債 務	4,128
		賞 与 引 当 金	82,223
		その他の流動負債	12,992
固 定 資 産	2,294,949	固 定 負 債	722,836
鉄道事業固定資産	2,172,444	退職給付引当金	44,025
建 設 仮 勘 定	116,288	役員退職慰労引当金	3,240
投資その他の資産	6,217	特別修繕引当金	460,873
差 入 保 証 金	2,200	圧縮未決算特別勘定	198,028
長期前払費用	3,998	リ ー ス 債 務	13,664
その他の投資等	19	資 産 除 去 債 務	3,003
		負 債 合 計	3,825,669
繰 延 資 産	1,031	(純資産の部)	
株 式 交 付 費	1,031	株 主 資 本	4,331,374
		資 本 金	3,178,000
		利 益 剰 余 金	1,153,374
		繰越利益剰余金	1,153,374
		純 資 産 合 計	4,331,374
資 産 合 計	8,157,044	負債・純資産合計	8,157,044

損 益 計 算 書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業		
営 業 収 益		6,413,728
営 業 費		6,456,220
営 業 損 失		42,491
営 業 外 収 益		
受託工事収入	991,632	
受 取 利 息	8,986	
雑 収 入	45,954	1,046,573
営 業 外 費 用		
受託工事支出	945,388	
株式交付費償却	2,744	
雑 損 失	9,212	957,346
経 常 利 益		46,735
特 別 利 益		
補 助 金	252,930	
固定資産売却益	9,892	
工事負担金等受入額	237,150	499,973
特 別 損 失		
固定資産圧縮損	305,295	305,295
税引前当期純利益		241,412
法人税、住民税及び事業税	94,835	94,835
当 期 純 利 益		146,577

株主資本等変動計算書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

(単位:千円)

	株主資本 利益剰余金				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本 合計	
		繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
令和 7 年 4 月 1 日残高	3,178,000	1,006,796	1,006,796	4,184,796	4,184,796
事業年度中の変動額					
当期純利益		146,577	146,577	146,577	146,577
事業年度中の変動額合計		146,577	146,577	146,577	146,577
令和 8 年 3 月 31 日残高	3,178,000	1,153,374	1,153,374	4,331,374	4,331,374